

事業所の概要表

(令和 4年 6月 1日現在)

事業所名	グループホーム ここち					
法人名	社会福祉法人 みかん会					
所在地	松山市志津川町200番地					
電話番号	089-978-7553					
FAX番号	089-978-7557					
HPアドレス	http://mikankai.com					
開設年月日	29 年 5 月 1 日					
建物構造	☐ 木造 ☒ 鉄骨 ☐ 鉄筋 ☐ 平屋 (2) 階建て (1.2) 階部分					
併設事業所の有無	☐ 無 ☒ 有 (小規模特別養護老人ホームみかんの里・ショートステイみかんの里)					
ユニット数	2 ユニット		利用定員数 18 人			
利用者人数	18 名 (男性 5 人 女性 13 人)					
要介護度	要支援2	0 名	要介護1	6 名	要介護2	4 名
	要介護3	5 名	要介護4	2 名	要介護5	1 名
職員の勤続年数	1年未満	6 人	1～3年未満	6 人	3～5年未満	5 人
	5～10年未満	0 人	10年以上	0 人		
介護職の取得資格等	介護支援専門員 1 人 介護福祉士 11 人 その他 (実務者研修・看護師)					
看護職員の配置	☐ 無 ☒ 有 (☒ 直接雇用 ☐ 医療機関又は訪問看護ステーションとの契約)					
協力医療機関名	・あかりクリニック ・安城寺クリニック ・岡田歯科 ・福角病院					
看取りの体制 (開設時から)	☐ 無 ☒ 有 (看取り人数: 4 人)					

利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(月額)	42,500 円					
敷金の有無	☒ 無 ☐ 有	円				
保証金の有無	☒ 無 ☐ 有	円	償却の有無	☒ 無 ☐ 有		
食材料費	1日当たり	1,280 円	朝食:	280 円	昼食:	500 円
	おやつ:	昼食に含む 円	夕食:	500 円		
食事の提供方法	☐ 事業所で調理		☐ 他施設等で調理		☐ 外注(配食等)	
	☒ その他 (同一建物内で調理)					
その他の費用	・ 水道光熱費	15,000 円				
	・ 共益費	4,000 円				
	・	円				
	・	円				

家族会の有無	☒ 無 ☐ 有 (開催回数: 回) ※過去1年間	
広報紙等の有無	☐ 無 ☒ 有 (発行回数: 12 回) ※過去1年間	
過去1年間の 運営推進会議の 状況	開催回数	6 回 ※過去1年間
	参加メンバー ※□にチェック	☒ 市町担当者 ☒ 地域包括支援センター職員 ☐ 評価機関関係者
		☒ 民生委員 ☒ 自治会・町内会関係者 ☐ 近隣の住民
		☐ 利用者 ☐ 法人外他事業所職員 ☒ 家族等
	☐ その他 ()	

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I.その人らしい暮らしを支える

- (1) ケアマネジメント
- (2) 日々の支援
- (3) 生活環境づくり
- (4) 健康を維持するための支援

II.家族との支え合い

III.地域との支え合い

IV.より良い支援を行うための運営体制

ホップ職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
“愛媛県地域密着型サービス評価”

新型コロナウイルス感染防止対策を十分おこない
訪問調査を実施しております

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市三番町6丁目5-19扶桑ビル2階
訪問調査日	令和4年6月27日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数)	9	(依頼数)	18
地域アンケート	(回答数)	3		

※アンケート結果は加重平均で値を出し記号化しています。(◎=1 ○=2 △=3 ×=4)

※事業所記入

事業所番号	3890101482
事業所名	グループホーム ここち
(ユニット名)	きよみ
記入者(管理者)	
氏 名	宇都宮 聖
自己評価作成日	2022 年 6 月 10 日

【事業所理念】※事業所記入 ①心地よく ②共に成長 ③地域貢献	【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】※事業所記入 ①家族会や運営推進会議に参加できなかった家族にも報告が出来るようにしていく。 ・毎月の手紙の送付時に行事や運営推進会議の様子を伝える手紙を同封し、何か意見があれば返信していただき、次回の運営推進会議に活かすように取り組んでいるが、会議自体に馴染みがない為か、返信していただいた事はなく実績としては上がっていない。 ②評価の結果をふまえて達成可能な目標や具体策を作成し公表する。 ・運営推進会議や面会時、またお便りなどを通して公表し家族等にモニターしてもらった。それに対して、口頭で意見をいただいている。 ③近隣住民との協力体制や避難場所の経路についての協力体制を整える。 ・町内会の方や民生委員の方に協力体制についての相談をする予定であったが、コロナ禍の為時間が取れず具体的な話しまでは至っていない。	【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 昨年10月に共用の通所介護を開設している。毎日、2～3人の利用者が通って来ており、そのことを機に、14時から、みんなで笑いヨガをしたり、風船バレーをしたりして遊ぶ時間を持つことに取り組んでいる。利用者にとっても生活の中の楽しみの時間となっている。 法人全体でリハビリテーションに力を入れており、作業療法士が個別にリハビリ計画を立ててくれている。職員は、それぞれの計画内容に沿って、室内で毎日体操や屈伸運動等を行うことを支援している。 毎朝、職員が新聞コラムを利用者に読んで聞かせ、その内容を話題にして話をする時間をつくっている。利用者は楽しみにしており、関心を持って聞き、話も弾むようだ。
--	---	--

評価結果表

【実施状況の評価】
◎よくできている ○ほぼできている △時々できている ×ほとんどできていない

項目No.	評価項目	小項目	内 容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅰ.その人らしい暮らしを支える									
(1)ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	会話の中から希望や思いを聞きケアに活かしている。	○		○	利用者個々の担当職員は、介護計画作成前に、日々の関わりから得た情報をアセスメントシート(私らしき・安心 快・馴染みの暮らしの継続等の項目)に沿ってまとめている。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	表情を見て読み取っている。				
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	△	家族・親戚と話し合っている。				
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	アセスメントシート、サービス計画書に記録し共有している。				
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	コミュニケーションを図り、見落とさないように気をつけている。				
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	会話の中から情報収集を行っている。			○	管理者は、入居前に本人宅等を訪問して、事前面談を行い情報を得ている。家族から聞き取った生活歴などの情報は、フェースシートに記入している。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態(身体面・精神面)や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	ミーティング等で現状の把握に努めている。				
		c	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握に務めている。(生活環境・職員のかかわり等)	○	生活リズム等把握しているが、変化に関してその都度情報収集している。				
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	本人の思い等、重視しケアに努めている。			○	アセスメントシートの情報をもとにして、ケアカンファレンス(ユニット会時)で検討をしている。
		b	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題の把握に努めている。	○	課題はその都度話を行っている。				
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	アセスメントからサービス計画を作成している。				
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	状況に応じて相談し、作成している。	○		△	利用者個々の担当職員は、介護計画作成前に、家族に意向等を聞き取り、アセスメントシートに記入している。ケアカンファレンスで話し合った内容をもとに、介護計画を作成しており、家族には、計画作成後に説明をしている。さらに、利用者に関係する人たちの意見やアイデアを計画に反映できるよう取り組みに工夫してほしい。
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	過去の会話の中、関係者に話を聞き、過ごし方を考えている。				
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	×	コロナ禍の為、実施できず。				
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	◎	全員が見えるところに計画書を置き、共有している。			◎	個別ファイルに、介護計画書と日常生活記録を見開きでとじて共有している。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを個別具体的に記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	◎	生活記録に記録している。			○	日常生活記録にケアプラン記入欄を設けており、実践内容を記録している。実践内容の記録の中に、利用者の言葉を「」で記入している。

項目 No.	評価項目	小 項目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	○	行っている。			◎	計画作成担当者が、期間(3～6か月ごと)を管理しており、見直し時期近になったら、利用者個々の担当職員に伝えてケアカンファレンスを行う準備をしている。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	○	ミーティングで確認している。			○	毎月行うユニット会時に、介護計画の内容に関係なく、利用者の現状について情報を出し合い確認を行っている。さらに、介護計画のモニタリングについて工夫はどうか。
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	家族に報告、相談見直しを行っている。			○	看とり支援開始時や退院後等の身体の状態変化時に見直しを行っている。
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	都度、開催している。			◎	毎月、ユニット会を開催し、議事録を作成している。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	事前に職員一人一人に意見を書いてもらっている。				
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫するとともに、参加できない職員にも内容を正確に共有している。	○	平日に会議を行い、議事録にて書面で共有している。			○	会議は、職員が参加しやすい時間に配慮しており、平日の午前9時半から開催している。議事録は、ユニット職員全員が確認して捺印するしくみをつくっている。
8	確実な申し送り、情報伝達	a	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	◎	カレンダー、申し送りノートを活用している。	○		○	家族からの伝言、医療に関すること、業務についてすべてを申し送りノートで共有しており、確認した職員はサインするしくみをつくっている。
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切に支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	○	可能な限り叶える努力はしている。				
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	お伺いするよう努めている。			○	昼、夕食の汁物とごはんは、ユニットごとに利用者と職員でつくっており、汁物は、和洋中、「何味にするか」「具を何にするか」等相談しながらつくっている。
		c	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切に支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	利用者のペースを考え努めている。				
		d	利用者の活き活きた言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉かけや雰囲気づくりをしている。	○	声掛けに対し、職員同士で工夫し雰囲気づくりをしている。			○	毎朝、職員が新聞コラムを利用者に読んで聞かせ、その内容を話題にして話をする時間をつくっている。利用者は楽しみにしており、関心を持って聞き、話も弾むようだ。
		e	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	その方の表情や仕草を日々注意し支援している。				
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切に言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。(人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮、目立たずさりげない言葉かけや対応等)	△	間違った言葉かけをしている時がある。	○	○	○	職員は、法人の勉強会に参加して各ユニットごとにレポートを作成している。 職員の気になる言葉かけや態度があれば、管理者やユニットリーダーがその都度注意している。管理者は、職員には、特に声のトーンに気を付けるよう話している。
		b	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	○	居室の戸やカーテンを閉め、他のご利用者の目に入らないように配慮している。				
		c	職員は、居室は利用者専有の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	職員同士注意しあい配慮しながら行っている。			評価 困難	調査訪問日は、ユニットへの立ち入り時間を制限したため確認することができなかった。
		d	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	十分理解している。				
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けってもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	年中行事や料理など話から引き出し、教えていただき、お手伝いを行っていただく場合は必ず「ありがとう」と感謝の気持ちを伝えていく。				
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	△	理解するよう努めている。				
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)	○	リビングで仲良い同士過ごせたり、会話を楽しめるようお誘いしたり、食べこぼしがあるとお世話をしたりと職員の見守りやきっかけを作り支援できるよう努めている。			◎	「部屋がわからない」という人に他利用者が居室まで連れて行ってあげるような場面がみられるよう。ユニットで購読している新聞を、複数利用者が自分のものと思っていて、取り合いになるような場面があり、どのように対応するのがよいかを検討した事例がある。職員から「新聞を無くしてはどうか」「家族に個人購読を依頼してはどうか」等の提案があったが、話し合い検討を重ね、併設施設や他ユニットから皆が読んだ後の新聞をもってきて対応することとなり、問題解決に至った。
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	利用者同士で解決できないことが多いので必ず支援に入り、両方の言い分を聞き取っている。				
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係や馴染みの場所などについて把握している。	△	本人との会話の中でしか把握できていない。				
		b	知人や友人等が気軽に訪れたり、本人が知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていったりなど、これまで大切にしていた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	×	コロナ禍の為、実施できず。				
13	日常的な外出支援	a	利用者(および意思表示が困難な場合はご家族)の希望に沿って、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	×	コロナ禍の為、実施できず。	△	△	×	春に桜の花を見に出かけた。また、5月には、利用者からの「外でおいしいものを食べたい」の声を、夢プランに採り上げて「ドライブしてアイスクリームを食べる」ことを支援した。そのほかは、ユニットから出ることはなく、散歩の支援も中止している現状にある。ベランダ、屋上や中庭に出て日向ぼっこしたり、時にはお茶の時間を持たたりする機会が少ない。
		b	家族、地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	×	コロナ禍の為、実施できず。				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	認知症の行動心理症状の理解に努めている。取り除くケアが試行錯誤の途中である。				法人全体でリハビリテーションに力を入れており、作業療法士が個別にリハビリ計画を立ててくれている。職員は、それぞれの計画内容に沿って、室内で毎日体操や屈伸運動等を行うことを支援している。室内でそうめん流しを行った時には、利用者に台所で薄焼き卵を焼いてもらい錦糸卵をつくった。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	維持向上が図れるよう、体操や口腔体操などの支援を行っている。				
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	△	ご利用者のADLによって出来ていることと出来ないことがあるが、必ず声をかけ行えることは行っていたい。	◎		○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	役割については本人の負担にならないように支援している。また今までの習慣、現在の習慣を通じて楽しみを持っていただくよう努力を行っている。				事業所は、昨年10月に共用の通所介護を開設している。毎日、2～3人の利用者が通って来ており、そのことを機に、14時からは、みんなで笑いヨガをしたり、風船バレーをしたりして遊ぶ時間を持つことに取り組んでいる。利用者にとっても生活の中の楽しみの時間となっている。さらに、今後は屋外で楽しむような機会を増やしてほしい。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、ホームの内外で一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	△	提供できる事柄について工夫を行いがらしている。	○	○	○	
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つと捉え、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	一人一人の個性、表現を把握し支援している。				利用者は季節に合った、清潔な服装で過ごしていた。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みに整えられるように支援している。	○	利用者の好みを聞きながら支援している。				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	必ず声をかけ気持ちを伺い、選べるよう支援している。				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせたその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	必ず声をかけ気持ちを伺い、選べるよう支援している。				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にできたり、口まわし、口の周囲等)	△	配慮できるよう努めている。	○	○	○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	○	施設に訪問してくださる散髪のかたもおられるが、本人家族には希望を聞き支援している。				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	日常生活における更衣を行い、清潔に保ち支援している。			◎	訪問美容師を利用しており、毛染めの希望等にも応じている。入居前からレースのヘアキャップを愛用している人は、入居後も使用を続けられるよう支援している。衣類は、家族は用意するが、利用者によっては、職員がショップからライブ中継して、利用者本人が好みのものを選んだり決めたりできるように工夫した。
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	理解するよう努めている。				主、副菜は法人の厨房から出来上がったものが届く。主食と汁物は事業所で、利用者と一緒につくっている。利用者は、汁物の具を切ったり、米を研いだり、食器を洗ったり拭いたりしている。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	△	野菜を切ったり、食器拭きなど利用者の負担にならない程度に行っている。			△	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	△	利用者の心身の状態に合わせて行っている。				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	アレルギーの有無は、入所時に好き嫌いも入所時に伺っている。また職員と利用者との会話から聞き出している。				利用者からは、ちらし寿司のリクエストが多いようで、厨房に伝え、材料を用意してもらってユニットでつくっている。天ぷらは、厨房から材料が届きユニットの台所で揚げ、出来立てを食べられるようにしている。
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえて、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔ながらの味を取り入れている。	△	行事食等は考慮しているがメニューは職員が決めている。			○	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法として、おいしいような盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いどりとりの工夫等)	○	職員の意見を聞き、担当者会議も行い助めている。				事業所では、軽いメラミン食器をそろえている。汁椀は取っ手がついていた。箸や陶器の湯飲み(おやつ時に使用)は、自分のものを使っている人が多い。
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	○	使用できるよう努めている。			△	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事と一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	×	一緒に食べていないことが多い。食事介助の利用者や嚥下状態の確認の利用者が多いため。			△	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	対面式の台所なので食事を作りながらお話ししながら作っている。	○		○	居間のホワイトボードに、職員が今日の献立を書いて話題にしている。主食、汁物をつくるにおいがする。行事食の時には、ランチョンマットを敷いたり、季節の箸袋を用意したり、お膳に紅葉を添えたりして食事を楽しく雰囲気をつくっている。
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べられる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	チェックシートを活用し確保できるよう努めている。				
		k	食事量が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。				
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○	定期的に話し合いを持っている。			○	法人の管理栄養士と話し合う場を持っており、献立のバランスについては、管理栄養士が管理している。
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	○	食材はほぼ毎日配達していただき、残がないよう使用している。食中毒予防のための話し合いなども行っている。				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	○	理解している。				異常を発見したり、本人からの訴えがあれば、歯科受診につなげている。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	△	口の中を見せていただけない方もおられるので全員の口腔内の把握は出来ていない。			○	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	×	歯科医師等から学んでいない。				
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	洗浄剤等を使用し支援している。				
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないよう、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック、歯科医の受診等)	△	口腔ケアの必要な方の清潔保持には努めている。自立又は拒否の強い方の口腔ケアについては日常的に出来ていない。			○	
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	理解しトイレで排泄を行っている。				ユニット会時のケアカンファレンスで話し合い検討している。 退院後、歩行状態が不安定であったが自室トイレでの排泄できるようにセンサーマット、可動式手すりを使って安全に自分でトイレを使用できるよう環境づくりを支援した事例がある。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	理解出来ている。				
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	○	生活パターンに記録し把握している。				
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々々の状態にあった支援を行っている。	○	基本トイレでの排泄を促している。また、訴えがない方も誘導しトイレに座っていただき排泄を促している。	◎		○	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	△	話し合いを持っている。継続して取り組みが出来ていないこともある。				
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	チェック表を利用し声掛けや誘導を行っている。				
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういった時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	入所時に使用していたものからの変更は本人に話している。決定が出来ない利用者に関しては、家族と話し合い今の現状を伝えている。				
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	○	状態に応じ使い分けている。				
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	◎	食物繊維やヤクルト等で自然排便を促している。				
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)。	○	出来る限り、その方の希望に沿って支援している。	○		○	一人ひとり湯を張り替え、入浴剤を選んでもらい週に2回を基本に入浴を支援している。 自立度の高い利用者で「毎日入りたい」「夕方や夜に入りたい」と希望があれば応じている。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分に入浴できるよう支援している。	○	見守りは必ずついているが、個々の状態に合わせて対応している。				
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	機械浴の方も自分で出来る範囲は行っていたいっている。				
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ち良く入浴できるよう工夫している。	○	声掛け雰囲気づくりを工夫している。				
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	○	入浴前のバイタルチェック、入浴後の様子観察にて状態を確認している。				
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	◎	巡視を行い確認している。				毎日、14時からみなで体を動かしながら遊ぶ時間を持っており、安眠につながっている。利用者によっては、就寝前に温かい飲み物を飲むと眠れる人もおり、支援している。夕食後から就寝までに共用空間の照明を徐々に暗くして入眠へ誘導している。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	認知機能の問題や精神的な問題も多くあるが、生活リズムの把握に努めている。				
		c	利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	月二回の往診、都度看護師に相談し、支援している。			○	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	居室の環境づくりに取り組んでいる。				

項目 No.	評価項目	小 項目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	本人の希望に沿って行っている。また携帯電話を持っている方もいる。使用を制限していない。				
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	△	本人に伺いながら支援している。				
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	している。				
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	必ず本人に手渡ししている。				
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	お願いしている。				
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	自立支援に繋がると理解できている。				
		b	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	×	コロナ禍の為、実施できていない。				
		c	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	×	支援できていない。				
		d	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	×	支援できていない。				
		e	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしておき、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	×	支援できていない。				
24	多様なニーズに応える取り組み	a	本人や家族の状況、その時々ニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	△	一人ひとりお話しでご家族の協力が得られれば支援できる。	○		○	昨年10月から、共用の通所介護を開設している。
(3)生活環境づくり									
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮	a	利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○	出来ている	◎	◎	○	建物前に駐車場がある。 共用玄関の周りは掃除が行き届き、緑が整備されており、玄関横には地域交流カフェがある。玄関を入ると事務所にスタッフがいる。
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気を有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものか置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	△	ご利用者の作品や季節の飾りなどを行っている。ただ、収集癖のある方がおられるため飾り付けを行っても1週間と持たないが、殺風景にならないよう工夫している。	○	◎	○	共用空間には、落ち着いた色の調度品を整備している。 テレビの前にソファを置いている。 入浴の時間には、脱衣所入り口に、ゆ暖簾を掛けている。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	毎日掃除を行っている。			◎	共用空間は、職員が掃除を行っており、気になる臭いもなく、清潔にしていた。
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	ご利用者の作品や季節の飾りなどを行っている。ただ、収集癖のある方がおられるため飾り付けを行っても1週間と持たないが、殺風景にならないよう工夫している。			○	カウンターに共用通所介護に通う利用者の家族からもらった百合の花を飾っていた。 廊下の壁面には利用者が折り紙で作った季節の作品を飾っていた。
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	椅子を置き、自由に座れるようにしている。				
27	居心地良く過ごせる居室の配慮	a	本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	居室に関しては個人の空間として使用していたがいている。	○		○	管理者は、入居前に本人宅等を訪問して生活環境の把握に取り組んでおり、馴染みのタンスなどがあれば、家族と相談して持ち込んでもらっている。 居室の窓のロックは、利用者の状態をみながら開錠している。
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、混乱や失敗を防ぎ、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	配慮している。			○	居間の椅子が高い人には、足置きを使用していた。 居室を間違いない人には、紙に名前を大きく書いて入り口に貼っていた。
		b	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	△	置くことにより危険となる場合があり置けているものと置かれていないものがある。				
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)を理解し、日中は玄関に鍵をかけなくても済むように工夫している。(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)	△	理解はしているが利用者の状態や状況により鍵をかけている。	◎	◎	△	鍵をかけることの弊害については、ユニット会時に管理者から話している。建物内施設と共有の玄関は鍵をかけていないが、ユニット入口は鍵をかけている。エレベーターはロックしており、必要時には職員が開錠して使用するようになっている。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	△	理解を図っているが安全を優先して鍵をかけている。				
(4)健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	把握している。				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	△	記録している。				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等いつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	○	主治医と連携を取っている。				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	○	希望を伺い支援している。	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	○	支援し努めている。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	○	連絡を行っている。				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	◎	入院連携シートを作成し持参していただいている。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、日頃から病院関係者との情報交換や相談に努めている。	◎	努めている。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	○	行っている。				
		b	看護職もしく訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	◎	出来ている。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	◎	行えている。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解し、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	△	理解するよう努めている。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおり服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	行っている。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	△	行っている。				
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	○	契約時とその後意向の確認を行っている。				この一年間では、複数の利用者の看とりを支援した事例がある。 口から食べることがむづかしいような状態になってきたら、家族と話し合いの場を持ち、事業所でできることできないことを説明して、支援について話し合ったり方針を共有したりしている。県外の家族の中には、面会に来ることを遠慮する人がおり、テレビ電話でつないでやり取りしたような事例がある。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけではなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	○	行っている。	○		○	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	△	十分出来ていない。				
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	◎	行っている。				
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	行っている。				
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	行っている。				
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	◎	研修を行っている。				
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	○	行っている。				
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れ、随時対応している。	○	行っている。				
		d	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	○	支援している。				

項目 No.	評価項目	小 項目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅱ.家族との支え合い									
37	本人とともに支え合う家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	面会時には、職員がご家族へ近況報告を行っている。				新型コロナウイルス感染症対策期間のため評価はできない。 職員が毎月、家族に電話して様子を報告している。時には、テレビ電話に切り替えて、利用者と話をする機会をつくっている。 毎月、事業所便りを作成して行事等の様子を報告している。 毎月作成する事業所便りに行事等の様子を載せている。また、「スタッフより一言」コーナーを設けており、順番に職員紹介をしている。 運営推進会議の内容をまとめたものを送付している。 毎月電話で報告を行う際に、意見や要望はないか聞いている。 家族が直接、管理者に相談ができるように携帯番号を伝えている。現在、家族からは、面会のあり方についての意見や苦情、要望が多いようだ。利用する側である家族の思い等も考慮して面会方法の工夫について検討してほしい。
		b	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等、家族同士の交流)	×	コロナ禍の為、実施できず。	△		評価困難	
		c	家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的な内容を把握して、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	○	毎月、お便りを作成しており、写真やコメントで日常の様子を報告している。	○		○	
		d	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	コロナの感染予防を行う中でも、窓越しの面会を行うなどして家族との良好な関係に努めている。				
		e	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○	運営推進会議の機会を利用して報告している。	△		○	
		f	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	○	事故のリスクを説明し話し合っている。				
		g	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行うことで、居心地よく安心して過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	来訪時の挨拶や、職員からご家族に話しかける事で質問や、相談が出来る雰囲気作りをしている。			○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。(食費、光熱水費、その他の自己負担額、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	◎	入所時に行っている。				
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	◎	行っている。				
Ⅲ.地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	×	コロナ禍の為、実施できず。		○		管理者は、運営推進会議の報告書を町内会長や民生委員宅に持参して、会議メンバーとのつながりを持てられるよう取り組んでいるが、そのほかには、特に取り組んでいない。 事業所は「地域の憩の場」となることを目指しており、さらに、地域交流が難しい時期であっても地域とつながりを持てるような取り組みについて工夫を出し合ってみてほしい。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	×	コロナ禍の為、実施できず。		△	×	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	×	コロナ禍の為、実施できず。				
		d	地域の人が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	×	コロナ禍の為、実施できず。				
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りてもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	△	挨拶はしている。				
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	×	コロナ禍の為、実施できず。				
		g	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得て、安全で豊かな暮らしができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー、コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	×	コロナ禍の為、実施できず。				
40	運営推進会議を活かした取組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	×	コロナ禍の為、書類のみの開催。	△		△	町内会長や民生委員、地域包括支援センター担当者に報告書と意見等を記入する用紙、返信用封筒をつけて持参して、書面会議を行っている。 家族へは、議事録を送付することにとどまっている。 利用者状況、活動報告(事業所便り添付)等を行っている。 外部評価実施後は、評価結果と目標達成計画を添付した。 地域メンバーから意見等をもらっているがサービスに活かし、その内容を報告したりするまでには至っていない。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告するとともに、会議で出された意見や提案等を活かした結果等も報告し、議事録を公表している。	×	コロナ禍の為、書類のみの開催。		◎	△	
		c	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	×	コロナ禍の為、書類のみの開催。		◎		

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	△	理念はあるが、日常的に取り組めていない。				
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	△	日常のケアで伝えているが、言葉としては不十分。	○	○		
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	△	取り組んでいるが把握は不十分。				法人の取り組みとしてストレスチェックを実施しているが、現状を踏まえて、さらに代表者は、現場職員の声を聴きながら、管理者、職員のストレス軽減に向けた職場環境の整備に取り組んでいくことが求められる。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	△	取り組んでいるが不十分。				
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	△	整備に努めているが不十分。				
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	△	連絡会等の参加は出来ていない。				
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	△	取り組んでいるが不十分。	○	○	×	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解したうえで、これらが見逃されることがないように注意を払い、発見した場合の対応方法や手順についても理解している。	○	研修を通して理解している。			○	3か月ごとに身体拘束や虐待防止の委員会を開き学んでいる。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	ユニット会・ホーム会・各委員会で場を作っている。				
		c	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	日常的に注意を払っている。				
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	研修を通して理解している。				
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	委員会を設置している。また個別の担当者会議を行っている。				
		c	家族等から拘束や施設等の要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	理解を図っている。				
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを含め理解したうえで、利用者や家族の現状を踏まえ、パンフレット等の情報提供や相談に乗る等の支援を行っている。	○	理解し、支援している。				
		b	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	○	必要の方が利用できるよう連携をしている。				
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	◎	定期的にマニュアルの見直しを行っている。				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	△	研修を行っている。実践力にバラつきがある。				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	◎	委員会を設置している。また個別の担当者会議を行っている。				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	担当者会議やユニット会での話し合いを持っている。				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	行ってる。				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	現在ないが、必要時は行う。				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	現在ないが、必要時は行う。				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
48	運営に関する意見の反映	a	利用者や家族が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	行っている。	○		△	月行事の内容については、職員が利用者に相談しながら決めている。 家族に運営についての意見等を聞くような機会は特にはつくっていない。家族からは、管理者に直接、面会のあり方についての苦情や要望がある。今回の家族アンケート結果を、事業所のさらなるサービス向上に活かしてほしい。
		b	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○	行っている。				
		c	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	○	行っている。				
		d	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	検討している。			◎	
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	年2回面談し自己評価、目標決定している。				外部評価実施後の運営推進会議報告書(書面会議)には、評価結果と目標達成計画を添付した。モニターをしてもらうような取り組みは行っていない。
		b	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて、事業所の現状や課題を明らかにするとともに、実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	×	行えていない。				
		c	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	×	行えていない。	△	△	△	
		d	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	×	行えていない。				
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	○	作成掲示している。				年2回(7月・11月)、建物内事業所全体で避難訓練を行っている。内1回は消防署の立ち会いのもと行った。地域の福祉避難所に登録している。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	年間に2回の避難訓練を行っている。				
		c	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	設備の点検は定期的に行っている。また非常食においても行っている。				
		d	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	×	行えていない。	△	○	△	
		e	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	×	行えてない。				
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	×	コロナ禍の為、実施できず。				現在は、特に取り組んでいない。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	×	コロナ禍の為、実施できず。		△	×	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	×	コロナ禍の為、実施できず。				
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	×	コロナ禍の為、実施できず。				
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	×	コロナ禍の為、実施できず。			×	